

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	和歌山県
-------	------

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	下津町立下津第二中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	3	1	9	18
生徒数	116	78	115	2	311	

II 研究の概要

1. 研究主題

自らすすんで学び、学力向上に励む生徒の育成  
～三側面（「意欲面」、「探究面」、「知識面」）からとらえた学習指導を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- 少人数指導を通して（習熟度別指導も含む）
  - ・ 3年生・国語科  
本校の課題の一つである表現力の弱さについて克服するため
  - ・ 1, 3年生・数学科  
系統性が高い教科として、特に基礎・基本の定着を図るため
  - ・ 2年生・理科  
生徒の情意的側面、教師の専門性を意識し、意欲的に学習を深めさせるため
  - ・ 3年生・英語科  
系統性が高い教科として、特に基礎・基本の定着を図るため
- T. T指導を通して
  - ・ 2年生・数学科  
系統性が高い教科として、特に基礎・基本の定着を図るため
  - ・ 1, 2年生・英語科  
系統性が高い教科として、特に基礎・基本の定着を図るため

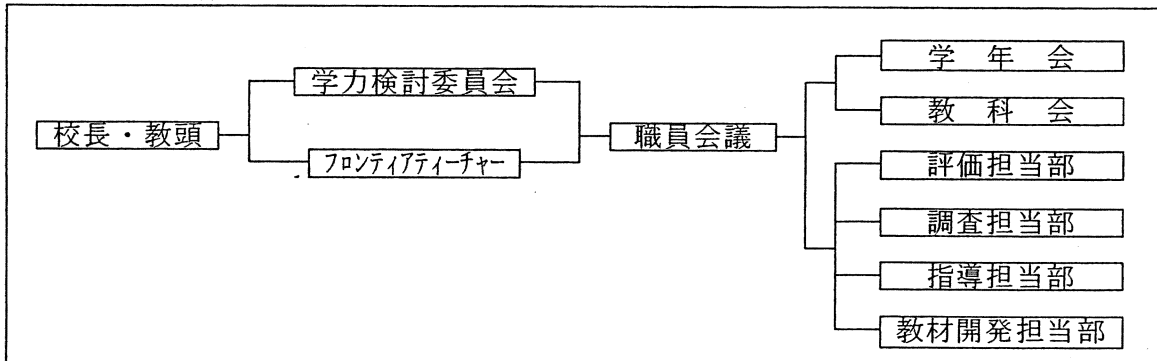
(2) 年次ごとの計画

- 平成15年度
- テーマ  
「三側面（「意欲面」、「探究面」、「知識面」）」の変容をねらいとした学習指導方法の工夫改善を図る
  - 研究の見通し（仮説）  
学習時は勿論のこと、事前準備や事後処理等の時から、三側面、特に情意的側面を意識した評価活動を行い、評価と一体化された学習指導を展開すれば、学力の向上に結びつく。
  - 研究の内容・方法
    - \* 「学力」の「三側面」からの分析
    - \* 基礎基本の定着
      - ・ 「読み・書き・計算」、「読書指導」、「生活指導」等
    - \* 個に応じた学習指導の推進
      - ・ 必修教科・・・少人数指導、T. T指導を中心として
      - ・ 選択教科・・・「補充選択」「発展選択」「課題選択」による指導
      - ・ 総合的な学習の時間・・・主体的学習力の育成、体験活動の充実
    - \* 指導と一体化した評価のあり方・生かし方

平成16年度	<p>○テーマ 学習基盤の定着を根底に据え、「三側面（「意欲面」、「探究面」、「知識面）」の変容をねらいとした学習指導方法の工夫改善を図る</p> <p>○研究の見通し（仮説） 継続的な研究（昨年度研究内容）に加え、学力向上の根底となす学習基盤の定着を徹底すれば、より一層の学力向上に結びつく。</p> <p>○研究の内容・方法 &lt;継続内容&gt; * 「学力」の「三側面」からの分析 * 基礎基本の定着 ・「読み・書き・計算」、「読書指導」、「生活指導」等 * 個に応じた学習指導の推進 ・必修教科…少人数指導、T. T指導を中心として ・選択教科…「補充選択」「発展選択」「課題選択」による指導 ・総合的な学習の時間…主体的学習力の育成、体験活動の充実 * 指導と一体化した評価のあり方・生かし方 &lt;新規内容&gt; * 研究のまとめ ・研究の成果や課題等をまとめ、今後の学習指導方法の工夫改善に生かす。 * 説明責任 ・生徒や保護者への状況説明 * 研究の成果の生かし方 ・次年度にむけての本校の方向</p>
--------	---

(3) 研究推進体制

①実践研究組織図



②研究体制上で工夫している点

- ・特定教科（主として研究対象となる教科）に偏らず、教職員全員で取り組める組織体制を図ったこと
- ・「学力向上には、学習基盤の定着が不可欠なもの」ととらえ、学年会（時には生徒指導）を体制内に位置づけたこと

Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 少人数指導を通して、学習内容の理解が深まるとともに、学習意欲の向上が見られる。

<具体例1>

(3年 国語科)

[表 1]

平成14年度(2年次)		平成15年度(3年次)	
ノート等提出率	79.6%	ノート等提出率	91.0%

[表 2]

	平成14年度(2年次)			平成15年度(3年次)		
	1学期中間	1学期期末	2学期期末	1学期中間	1学期期末	2学期期末
A男	8	3	0	22	8	29
B男	32	43	16	28	41	54
C女	21	39	27	32	45	38
D女	12	9	7	22	34	57
E女	42	35	42	55	49	64
F女	41	38	51	45	67	51
平均	63.9	64.5	65.3	65.9	70.8	77.7

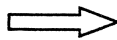
3年生になって初めて少人数授業を実施した。授業では、活動時間が多くなり、一人一人に目が行き届くことができ、集中して授業を受けることができるようになった。その一例としてノート等の提出率〔表1〕がよくなっている。授業への関心が高まり意欲的に取り組めるようになると、テスト結果にも反映される。〔表2〕は2年次1学期中間テストで下位だった6名の点数の推移である。いろいろな違いから点数の変化だけを見るのは難しいが、全体的に見て点数が高くなっていることが言える。

<具体例2>

(2年 理科)

[表 3]

1年次 3学期期末テスト	
点 数	人 数
90~100	12
80~89	24
70~79	16
60~69	10
50~59	6
40~49	2
30~39	5
20~29	3
10~19	1
0~9	0



現2年 2学期期末テスト	
点 数	人 数
90~100	19
80~89	24
70~79	18
60~69	6
50~59	3
40~49	5
30~39	1
20~29	0
10~19	1
0~9	0

[表 4]

	1年次 3学期期末テスト	現2年 2学期期末テスト
A男	12(点)	11(点)
B男	20	34
C男	21	特殊学級入級
D男	28	86
E子	31	76
F男	31	42
G男	34	41
H男	37	53
I男	37	73
J子	44	67
K子	49	70

現2年生では、1年次で一斉授業を行ったので、初めて少人数授業を取り入れることになった。〔表3〕は1年学年末テストと2年2学期期末テストの度数分布表であり、指導内容、難易度とも異なるため、一概に比較することは難しい。しかし〔表3〕から判断すると、度数分布が上位に移行していると同時に、低学力であった生徒の学力向上が明瞭に表れている。これは、少人数授業を行うことにより、実験や観察を班3、4人でできるため、一人一役以上の担当ができ、自ら意欲的に参加する場面をつくることができ、興味や関心を高め、知識・理解の定着へと結びついたので考えられる。また、少人数授業を行うことで、低学力の生徒に対して、多くの場面できめ細やかな支援ができた。〔表4〕

[生徒の声]

少人数授業、TT授業を振り返って(学習に関する調査より)

「学習内容がよくわかる」、「先生に質問しやすい」、「発表しやすい」、

「集中できる」等・・・81.3%

(2) 読書指導・生活指導を通して、授業にのぞむ姿勢や集中力が身につくつある。

・学習基盤の確立が、学力向上の礎となすことを再認識する。

## 2. 今後の課題

- \* 個に応じた指導をより一層発展させるため、弾力的な授業方法等の工夫改善を行うこと
  - ・ 学習内容に応じた授業方法及び授業形態
  - ・ 学習進度の違い(授業者の違い、生徒個々の違い)への対応 等
- \* 学習基盤を確立するため、基本的な生活習慣等のより徹底した取組を行うこと
  - ・ 読書指導…全学年で読書タイム20分間(8:15～8:35)を創設し実施する。
  - ・ 生活指導…基本的な生活習慣(ベル着、忘れ物 等)を身につける。
  - ・ 基礎学力指導…ドリル学習(読み・書き・計算)を日課上に位置づける。
- \* 指導と一体化した評価のあり方・生かし方を追究すること
  - ・ 個々の追跡調査等を行い、検証を通してできれば数値化する方法を追究する。
  - ・ 自己評価、生徒相互評価、教師への評価等、一層の工夫改善を行う。
  - ・ 生徒や保護者への状況説明(評価も含む)を行う。

## IV 学力把握のための学校としての取組

- \* H15. 6. 4(水) 「学習に関する意識調査(1)」  
少人数授業(平成14年度から実施)、T.T授業(平成7年度から実施)など、授業方法や授業形態等について生徒と教師を対象に意識調査を行った。
- \* H16. 1. 16(金) 「学習に関する意識調査(2)」  
少人数授業(平成14年度から実施)、T.T授業(平成7年度から実施)など、授業方法や授業形態等について生徒と保護者を対象に意識調査を行った。
- \* H16. 2月中旬 「生活等に関する意識調査」  
学習基盤の確立をめざす一助とする調査を、生徒を対象に実施予定。

## V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- \* H15. 9. 30(火)  
海南第一中学校(同指定校)との合同現職教育を開催する。近隣校出席のもと、北 俊夫 教授(岐阜大学)による講演、両校報告及び研究協議を行う。
- \* H16. 1. 20(火)  
海草地方指導方法の改善に関する研究協議会を開催する。近隣校出席のもと、提案授業、取組の経過報告、研究協議を行う。
- \* H16. 3月末  
研究実践のまとめを近隣校に配布予定。
- \* H16. 11月  
研究内容と実践についての発表会を開催予定。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校     14年度からの新規校

【学校規模】             3学級以下             4～6学級  
                           7～9学級             10～12学級  
                           13～15学級         16学級以上

【指導体制】             少人数指導             T. Tによる指導  
                           その他

【研究教科】             国語             社会             数学             理科  
                           外国語         音楽             美術             技術・家庭  
                           保健体育     その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】             有             無